

AA19980055J1

医・歯学部

98.8.19
朝日

募集約400人削減へ

2-3年で 文部省方針 医師余り防ぐ

文部省は来春の一九九九年入試から二、三年かけて、国公私立大学の医学部（医学科）と歯学部でそれぞれ二百人近く募集人員を減らす方針を固めた。国立大医学部は、四十二校で少なくとも百人減らす。「将来の医師余りを防ぎたい」とする厚生省の意向を受けた措置で、国立大医・歯学部の募集人員の削減は、ほぼ十四年ぶりとなる。来春の入試では、医学部が東大、京大など四校で各五人の計二十人、歯学部は東京医科歯科大で十人減らされる見込みだ。

来春、京大などで計30人

ピーク時からの募集人員は二割の募集人員を九五年の推移は表の通り。厚生省度までに減らす方針を打ち出した。九八年度までに歯七・七％にとどまっている。医学部は一部、歯学部学部はほぼ目標を達成した

厚生省の「医師の供給に関する検討会」は今年五月、新たに医師になる人数を二〇二〇年を目標に現状の一割減の年七千人弱に減らすべきだとする報告書を発表。国家試験の合格ライの引き上げや受験回数制限などを打ち出すことも限などを打ち出すことも

医学部と歯学部の募集人員の推移

【医学部】				
	校数	84年度	98年度	削減率
国立	42校	4580人	4100人	10.5%
公立	8校	660人	655人	0.8%
私立	29校	3040人	2885人	5.1%
計	79校	8280人	7640人	7.7%
【歯学部】				
	校数	85年度	98年度	削減率
国立	11校	860人	680人	20.9%
公立	1校	120人	95人	20.8%
私立	17校	2400人	1939人	19.2%
計	29校	3380人	2714人	19.7%

（医学部は84年度、歯学部は85年度が最も多かった）

来年度は、大学の教育体制や地域の医師数の状況などを考えて、削減対象を医学部の定員が百人の四校に決めた。東大、京大以外の医学部は、比較的医師の数の多い地方の大学だといえる。一方、歯科医師について、厚生省の同様の検討会の提言を受けて、現在の二千七百七十四人のうち、少なくとも百七十一人は減らす必要があると判断した。国立大でどの程度減らすかは、私立大の削減状況を見ながら決める見込みだ。

育成費用も無視できず

《解説》大学医学部と歯学部の募集人員の削減方針を文部省が固めたのは、医師余りが避けられないことが最大の理由だ。厚生省の検討会の推計によると、医師の増え方を最も低く、必要とされる医師数を最も多く見積もった場合でも、医師は二〇一七年ごろから余り始め、二〇二〇年には約六千人、二〇二五年には約一万四千人が過剰になる。歯科医師も、二〇二五年に約九千一百八十八人が過剰になるといわれる。医師を一人育成するのに必要な費用は約三千万円にのぼる。「医者が多いから仕事をめぐり、その結果、医療費が増える」との批判もある。文部省は、余剰人間を税金で育成できないと判断。少子化による教員採用減で、募集人員が減らされる教員養成学部と同じ扱いをとった。

今後は募集人員の削減だけでなく、東大理科III類の面接試験全面導入など、適性のある人材を選ぶための入試改革がさらに求められる。（社会部・飯島 武彦）